博士論文の要旨及び審査結果の要旨	
氏　　名	渡邉　篤史
学　　位	博　士（　工学　）
学 位 記 番 号	新大院博（工）第 452 号
学位授与の日付	平成 28 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
博 士 論 文 名	新潟県下越地方における歴史的建造物群の残存状況と外観特性 –町屋を中心とした町並みに着目して–
論 文 審 査 委 員	主査　　教授・岡崎　篤行 副査　　教授・西村　伸也 副査　　教授・加藤　大介 副査　　准教授・黒野　弘靖 副査　　助教・松井　大輔

博士論文の要旨

全国各地で歴史的町並みを活かしたまちづくりが進められているが、全国規模で歴史的町並みの網羅的な実態把握がなされていない。また、町場の町並みを形成する主として町屋があげられるが、地域性が把握しにくいと言われ、農家と比べると全国規模での体系的な研究が立ち遅れていると言われ、体系的な把握が必要である。

そこで本研究では、伝建調査のような詳細な調査に先立ち、簡易に広域的な集落の網羅的調査を行い、町屋を中心とした歴史的建造物群の残存状況の把握と町並み保全型まちづくりを進めるための詳細な外観特性の把握を行うための基礎的悉皆調査の一方法を提案し、江戸期から湊町として栄え近世に町建された計画的な町割と多数の歴史的建造物が残る湊町新潟と新潟を含む新潟県下越地方において調査を行っている。

その結果、近世湊町の町割が残る旧新潟町では、調査した全建造物数 10,358 棟のうち、歴史的建造物は 1,405 棟と推定し、歴建率 13.5%としている。上大川前通 12 番町周辺や古町通 9 番町周辺は歴建率が約 30%と比較的高く、いずれも重要な地域と判明した。また、多様な用途や多様な配置形態の歴史的建造物が残存していることも明らかにされている。

次に、下越地方の 50 集落において調査した結果、歴史的建造物を 7,447 棟を推定している。横屋–竪屋複合町屋は、下越地方の岩船郡北部及び西蒲原郡南部にはほとんど見られず、旧中蒲原郡から旧北蒲原郡西部にかけて多く分布している傾向がある。これは、江戸時代後期から明治初期にかけて竪屋の町並みであったと推察され、明治中期から前棟横屋（横屋–竪屋複合町屋）を確認できる。また、1908 年（明治 41 年）の市内建築要項が横屋–竪屋複合町屋の普及に影響を及ぼした可能性を指摘できる。

審査結果の要旨

本論文は、新潟県下越地方における歴史的建造物群について、これまで十分明らかにされていなかった全体像を把握し、さらに具体的な特徴についての実態と成立要因を可能な限り明らかにしたものである。

本論文は、新潟県の町屋を中心とした歴史的建造物群の残存状況と外観特性について、極めて有益な知見を示しており、今後の県全域、さらには全国的な研究の基盤となるものであり、建築学、都市計画学の分野に重要な貢献をなす研究と評価できる。よって本論文は、博士（工学）の博士論文として十分であると認定した。